



# 二俣川小だより

～笑顔いっぱい 友達いっぱい～

2月号

横浜市立二俣川小学校 令和6年1月25日



創立150周年

校長 泉 太郎

## 能登半島地震を通して

1月1日に発生した能登半島地震から1か月を迎えようとしています。多くの人の懸命な努力により、少しずつライフラインの復旧が進むとともに、地震やそれに伴う津波による被害状況の大きさもより明らかになってきています。多くの学校が避難所となる中、子どもたちの学びを止めないよう、学校も再開されつつあります。中学校に至っては、輪島市、珠洲市、能登町で、希望する生徒は集団避難により白山市や金沢市で学校生活を再開させました。その期間は約2か月にわたるといことです。1月22日の朝会では、そのことに触れて話をしました。

「地震により被災し、水や電気などのライフラインが自由に使えない生活や自分の家が安全でなくなり避難所での生活が続く中、家族と離れ、別の場所で仲間とともに2か月にわたり生活をしていきます。それを選んだ中学生もいれば、選ばず地元に残り今の生活を続ける中学生もいます。別の場所での集団生活を4年生や5年生の宿泊体験学習や6年生の修学旅行のように、友達と過ごすことができ楽しそうと思う人もいるかもしれません。でも、朝起きてから寝るまで常に一緒に生活し、自分一人の時間を持つことはできません。家族は地元で自宅や避難所で不便な生活を続けています。中学生のことではありますが、自分だったらどうするか考えてほしいです。いま私たちは安全で安心な生活を続けられています。もちろん災害支援のための義援金やボランティアという形で支援もできますが、大切なのは一日一日の生活をしていくことだと思います。そして、被災している人の生活に関心を持ち続けていくことも大切です。」

この横浜でもいつ大きな地震が発生してもおかしくないといわれてから随分と経ちます。地震の規模や発生した時刻、自分がいる場所によっても大きく状況は変わると思います。子どもたちが家族といるときや学校にいるときであれば少しは安心ですが、登下校中や一人でいるときに発生したときがとて心配です。学校では月に1回、地震・火災・風水害・不審者対応など、様々な状況を想定し避難訓練を実施し、自分の命を守ることができるようにしています。ぜひ各家庭におかれましても、今回の震災を通して、改めて大きな災害が起きた時にどう行動するか、どう安否確認をしていくかなどの確認をしていただきたいと思います。

### ☆校舎建替え工事が進んでいます④

校舎建替え工事は、1月は主に表層地盤改良、整地などが行われました。12月に比べ、よりきれいに整地され、正門になるところや新しく昇降口になるところでは高低差もはっきりとわかるようになってきました。また、墨出しも行われ、黄色い系で新校舎が立つ場所が区画されました。今の校庭いっぱい新校舎が立つことがわかります。1月末からは杭工事が始まり、校舎を建てるための杭の打設が始まります。



屋上からカメラのパノラマ機能で撮ってみました。